

【議事録】概要

会議名	芦屋町地方創生推進本部（第1回）	会場	芦屋町役場 課長会議室			
日時	平成27年7月1日（月） 9:10~9:45					
件名・議題	<p>1) 芦屋町まち・ひと・しごと創生に関わる推進体制</p> <p>2) その他</p>					
出席者	本部長	波多野 茂丸	出		武谷 久美子	出
	副本部長	鶴原 洋一	出		井上 康治	出
		中島 幸男	出		入江 真二	出
		大長光 信行	出		松浦 敏幸	出
		中西 新吾	出		村尾 正一	出
		松尾 徳昭	出		岡本 正美	出
		藤崎 隆好	出		本石 美香	出
		縄田 孝志	出		江嶋 勝美	出
		池上 亮吉	出		中西 新吾	出
		吉永 博幸	出		濱村 昭敏	出
					木本 拓也	出
合意・決定 事項	<p>○推進体制について承認。</p> <p>○職員提案を実施する。ポートルースの施設活用方策についても提案を募集することで承認。</p>					

平成 27 年度 芦屋町地方創生推進本部（第 1 回）議事録

町長あいさつ

- 芦屋町の地方創生は本日が第 1 回目の会議となりスタートである。
- いろんな場面で話をしているが、「まち・ひと・しごと」の創生は、芦屋町独自の地方創生をこの 1 年間で作るもの。各課においては、発想の転換をしてもらいたい。
- とにかく改革をしないと前に進まない。まずは各課の今の現状でよいかということをしつかり考えてもらいたい。
- 福祉課、地域づくり課、環境住宅課、学校教育、生涯学習。特に教育は心してしっかりしていてもらいたい。これからは教育は厳しく指摘していく。核となるのは教育であり、福祉である。このことを頭に入れてまちづくりをしないといけない。
- 各自自治体では「顔」を持っている。山や海や川、人口規模や面積などそれぞれの特徴でそれぞれのやり方がある。このことも基本に踏まえて進めていてもらいたい。芦屋町にあった地方創生が必要。今から 20 年、30 年先の目標をしつかり作らないといけない。
- 芦屋は「海」に特化したまちづくりを推進していくと選挙で話をしてきた。これまで色々議論してきたが行き着くところは海しかない。
- 数年前から港湾問題は言い続けてきた。港湾は県の壁が厚かったが最近穴が開き、協議の場がやっとできたところである。
- 山鹿側は釜風呂跡地の整備。寄付者の意向もあり町民の憩いの場として整備する。ここから、はまゆう群生地、はまゆう公園・響愛の鐘、洞山、海の駅などと素材が沢山ある。芦屋側では、砂像の復活。これはすごくインパクトがある。芦屋の背景には北九州地域、筑豊地域がある。商圏的な捉え方をするととても広いエリアを持っている。この人たちに芦屋の海に来てもらうための魅力を打ち出している。
- 定住化については、行政面積が少ないので宅地造成は難しいが、交通問題で敬遠されていることもある。まちづくりは、これらを繋げていきたい。
- 海が好きな人は沢山いる。環境がいい。そこに教育や福祉が充実している。こう言われたい。小さな町だからこそ、1 人 1 人の考えを、もう一步踏み込んでアイデアを出してもらいたい。今は企画力の時代である。2 年で成果が出なければやめるのも方法である。
- 地方創生は、芦屋にとって大きなチャンスである。
- 商工会では特産品開発をやっている。若手はその気になっている。この期を逃さず取り組むことが重要。各課で何をしたらいいか、どうしたらいいかをしつかり考えてもらいたい。各課には関係団体もたくさんある。この団体の声も十分に聞いて、反映してもらいたい。
- とにかく、この推進本部は、芦屋町にとって大きなチャンスがきたと捉えて、しつかりと取り組んでもらいたい。

1 芦屋町まち・ひと・しごと創生に関わる推進体制

【説明概要】

○今年の3月議会で、地方創生先行の補正予算を約 60,000 千円議決している。6月議会では附属期間の設置条例を可決し施行したところである。この本部は本日付けで発足したということもあり、これまでの状況報告とともに、喫緊するこの2ヶ月間の動きについて共通認識し、各課長がアンテナを張り今後どう動いていったらいいか考えてもらいたいというものである。

○資料に基づき、推進本部の役割、推進委員会の役割と構成、係長プロジェクトの位置づけと構成などについて説明。

【意見等】

※質疑なし

【結論】

※資料の内容について承認。

2 その他

(1) 職員提案の募集

【説明概要】

○資料のとおり説明。

【質疑・意見等】

○推進委員会のメンバーはいつ決めるのか。(町長)

→ 7/8の政策会議で案を出す。その後委員にあたり了承を得るようにし、7/24の政策会議で決定。最終的には8/5の本部会議で決定していただく予定。(企画政策課長)

→ 議会でも若い世代を積極的に入れるよう複数の議員からかなり言われている。次世代を担う人という視点で30~40歳代の人を中心にお願いしていきたい。(企画政策課長)

○人選の段階で、誤解を招くような依頼や発言をしないようにすること。(町長)

【結論】

※資料の内容について承認。

(2) 職員先進事例調査の推奨

【説明概要】

○職員先進地視察研修制度を積極的に活用し、アイデア出しをしてもらいたい。

【意見等】

※質疑なし

【結論】

※資料の内容について承認。

(3) その他

【町長からの補足】

○特に交通問題については、どの場面でも出てくる。しょうがないでは済まされない。これが一番重要である。

○保護者と接する機会が多くあるが、その場面が出るのは、子育てで一番お金が必要なのは高校。特に通学ということ。

○それぞれがいろんな施策を展開しているが、バラバラにするのもいいが、核となるものが必要。

○各課で何が課題か。大胆な改革をする。びっくりするような改革案を出してもよい。

○競艇事業局についても、本場の売上構成は 28%程度で、施設の空きスペースがたくさんある。西プラザの活用もできないか。各レース場でも悩んでいるのではないかと思う。空きスペースの活用について、競艇事業局や企画課でアイデアが出せないか。

○ゆめリアは開催中も利用できるようにしているためもっと活用してもらいたい。また施設の有効活用もどんどんやってもらいたい。競艇事業局は本場の来場促進が課題。西プラザの活用でイベントをやったりキッズ広場の整備などもやっているが、今の話はもっと大きな意味で幅広く活用してもらいたいということ。活用していないところはあるし利用の環境は整っている。交流人口の増も一つの地方創生の施策であるので、レース場もまさにその一つである。競艇事業局でもやるが、活用についてはどんどんやってもらいたい。(競艇事業局長)